社会福祉法人　福田会
週次報告書

2022年8月9日 / Vol. 013

8月1日(月)～8月7日(日)の支援活動

支援所・学生寮への支援物資提供

レストランプロジェクト

食材支援

レストランプロジェクト利用者から日本の皆様へ手紙を頂いた。
「侵攻によって厳しい状況におかれているウクライナの家族に対する支援と配慮に、心から感謝しています。」と書かれている。

ご支援総額

2022年8月5日までの寄付総額　98,238,231 円

寄付金使用総額 1,249,167.78 zl（3,634万円）

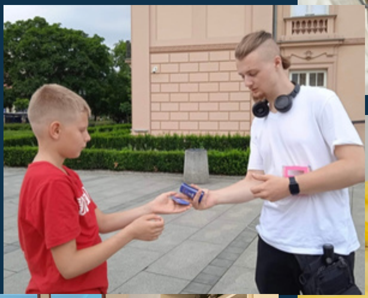
8/1(月)～8/7(日)の期間中の寄附金使用額

76,963.96 zl(約223万円)

活動内容

支援所・学生寮への支援物資提供

クラクフ中央駅地下のカリタス支援所とオポルスカ支援所（前：クラクフ駅プラットフォーム4番支援所）へ支援物資を提供。
歯磨き粉・石鹸などの消耗品や、インスタントフードを購入。
学生寮とオポルスカ支援所へは、週に1度フルーツの配達を実施。



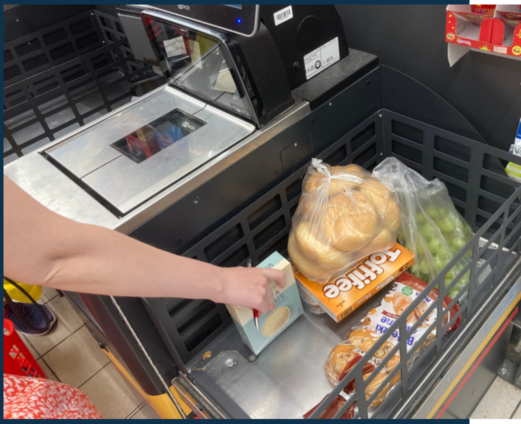
レストランプロジェクト

4店舗と協力し1週間で約1110食を提供。
ウクライナから避難してきた子ども100人以上を預かる託児所では、レストランプロジェクトは母親たちから好評で、クーポンが配布される日を楽しみにしているという。

食材支援

25家族に1週間分の昼食用食材を提供。
合計で 2432.46 zl（約71,000円)分の食材を購入。

避難所などでは生ものを手に出来ることがまずなく、食材支援でしか買うことが出来ないためか、魚の切り身やサーモンを購入する家庭が多かった。



1週間分の昼食代として一人あたり50zl（約1450円)の予算を設けており、割引カードやプロモーションを利用し、予算内で上手く買い物をする家族の姿も見られた。

また、毎日レストランプロジェクト参加店にクーポン無しで訪れていた家族を食材支援に誘導。
「こんな支援があったなんて。私たちに支援の手を差し伸べてくれて、ありがとうございます。」と涙ぐみながら支援者の皆様へ感謝を述べていた。

現地の動向

クラクフ市内中心は連日観光客で賑わっており、「隣の国で戦争が起きているとは、とても想像出来ない。」と話す観光客の姿もある。

それでも、街の至るところにウクライナとの連帯を示すウクライナ国旗が掲げられており、公園などのお金のかからない公共施設ではウクライナ語が聞こえてくる。

ポーランドでは厳しい暑さが続いており、アイスクリーム屋は行列を作っている。
5年ほど前までは１スプーン 2.5zl（73円） だったが、インフレの影響を受け、今夏は１スプーン 5zl（約145円）以上が相場となっており、行列を作るのは専ら観光客になっている。